

# 助成事業説明書①

記入例

## 助成事業説明書

助成金種類	まちづくり助成
事業名	三世代ふれあい交流事業
事業の概要	子どもから高齢者までの各世代が気軽に参加できるイベント『三世代ふれあい交流会』を地域の公民館で開催した。 『三世代ふれあい交流会』でのつながりを継続するために、『おしゃべり交流会』を2回開催した。
団体名	〇〇〇の会

申請書と同一

### ① 実施した事業の内容

・11月3日(金・祝)10時から15時 A 公民館にて、子どもから高齢者まで集まり交流する『三世代ふれあい交流会』を開催した。参加者 100 人。  
 <内容>  
 ① 昔遊び(竹馬、スゴロク、お手玉)、おもちゃ作り体験(竹とんぼ、ふんぶんゴマ)コーナー設置。(シニアクラブ、竹の会に講師依頼)  
 ② ステージでの一芸披露大会(合唱団、子ども会、手品サークル、個人による発表)  
 ③ 軽食、喫茶の提供(焼き菓子、パン、飲み物)  
 ・11月25日(土)(参加者 20 人)、12月16日(土)(参加者 22 人)10～12時 A 公民館にて「おしゃべり交流会」を開催した。  
 <内容>  
 「三世代ふれあい交流会」で知り合った人たちが、その後も交流できる機会を持つために、「三世代ふれあい交流会の感想」「日頃気になっていること」などについて、自由におしゃべりをした。

実際に行った事業の内容を記入。

### ② 事業の実施結果

時期	内容	場所・時間	参加者人数	スタッフ人数
4月	事業の企画会議実施	A 公民館		
	・4/10(月)	19～21時	10	
	・4/14(金)	19～21時	10	
	・4/22(土)	10～12時	10	
5月	事業告知チラシの作成	A 公民館		5
	・5/27(土)	10～12時		
6月	各団体に協力依頼(スタッフで分担し、団体へあいさつ)			10
7月	各団体との打ち合わせ会議実施	A 公民館		
	・7/22(土)	10～12時	他団体 5	8
8月	打ち合わせ会議実施	A 公民館		
	・8/26(土)	10～12時		8
9月	打ち合わせ会議実施	A 公民館		
	・9/8(金)	19～21時		9
	・9/30(土)	10～12時		10
10月	打ち合わせ会議実施	A 公民館		
	・10/13(金)	19～21時		7
	・10/28(土)	10～12時		10
11月	『三世代ふれあい交流会』を開催	A 公民館	100	10
	・11/3(金・祝)	10～15時		他団体 15 喫茶外部スタッフ 5
	『おしゃべり交流会』を開催	A 公民館	20	5
	・11/25(土)	10～12時		

実際に行った事業スケジュールを記入。

- ・実施内容
- ・場所・時間
- ・参加者人数
- ・関わったスタッフ人数

助成事業説明書②

12月	『おしゃべり交流会』を開催 ・12/16(土)	A 公民館 10～12時	22	7
1月	イベントの振り返り会議実施 ・1/20(土)	A 公民館 10～12時		10
2月				
3月				

事業に変更があった場合に記入。  
 ・変更内容  
 ・その理由  
 (変更承認申請書を出さない軽微なものを含む)

③ 事業の変更点・理由

実施した事業において、申請計画から変更があれば、変更理由を記入してください。

・会場の調整がつかなかったため、『三世代ふれあい交流会』の実施を10月から11月に変更した。それに伴い会議が増えたため、会場費の支出が増えた。  
 ・おもちゃ作り体験の講師料を材料費(竹)込みで受けていただいたため、需用費「おもちゃ作り材料費購入代」が予算より減額した。

④ 事業の成果

申請書に記入した「解決したい地域課題」に対し、この事業を行うことでどのような成果があったかを記入。

この事業を通じて、どんな現状とができたかをご記入ください。  
 ※ のように、成果と判断したその根拠を具体的に記入してください。

・『三世代ふれあい交流会』には、予定の50人を上回る子どもから高齢者100人が参加し、昔あそびやおもちゃ作りを一緒に楽しむことで交流が生まれ、顔見知りになった。それをきっかけに、高齢者が登下校中の子ども達に「おかえり」「気をつけて」などと声をかける姿が見られるようになった。この事業がきっかけになり、子どもたちを「見守る目」が増えたことを実感している。  
 ・個人での「一芸披露大会」への参加が予定(5名程度)よりも多く(10名が発表)、見ている方たちも温かい声援を送っていた。同じ地域に住んでいながら顔を合わすことがなかった人同士が知り合うきっかけになった。  
 ・シニアクラブ、竹の会、地域の高齢者が会話する姿が会場のあちらこちらでみられた。これまでは交流がなかったシニアクラブと竹の会が、共同で地域でのイベント開催を計画しているとのこと。この事業がきっかけになり、地域での活動が広がっている。  
 ・『おしゃべり交流会』では、『三世代ふれあい交流会』の感想として、「おじいさんと一緒に竹とんぼを作ったのが楽しかった。」「おばあさんみたいにお手玉がじょうずになりたい。」などという子どもたちの声、「家の孫同様近所の子たちも気にしないとイケないと感じた。」「顔を覚えたことで、近所の子に声をかけやすくなった。」などという大人の声が多数あった。  
 また、顔見知りになったのをきっかけに、日常でも話をするようになった地域の人達同志が、地域で気になることなども話すことができた。自分たちの地域に目を向け、課題について話せる機会になった。

⑤ 事業の継続

今後この事業を継続していくために、資金確保や事業展開について、どのように考えているかをご記入ください。

○1年後

・小中学校のPTA・子ども会・自治会に協力を仰ぎ、地域行事として継続して行えるようにする。  
 ・チラシを市内幼稚園、小学校、公共施設に配布、ポスターを市内スーパーに貼ってもらう、ホームページで告知するなど、広くPRする。  
 ・地元の○×商店に協賛を依頼し、資金面での協力をお願いする。  
 ・イベント時には募金箱を設置し、協力を仰ぐ。

○3年後

・地元の○×商店以外にも協賛していただける商店を増やし、資金面での協力をお願いする。  
 ・『おしゃべり交流会』の回数を、2回から4回に増やし、地域のことを気軽に話せる交流の機会を定着させる。

助成金が交付されなくなつてからのことを視野に入れて、その手段を具体的に記入。